

# 泉が丘地域学校園（園内の学校：泉が丘中学校，今泉小学校，泉が丘小学校）

## 1 研究テーマ

学び合いを通して、自分の思いや考えを表現できる児童・生徒の育成

## 2 研究の目的

本地域学校園の実態を把握するため、昨年度の「学習と生活についてのアンケート」結果を分析したところ、話し合いに自分から進んで参加したり、自分の考えを根拠をあげながら話したりすることに対する肯定割合が、他と比べるとやや低いことが分かった。そこで、本地域学校園の教育方針である「望ましい人間関係をつくり、進んで学び合う児童・生徒の育成」に迫るため、研究テーマを「学び合いを通して、自分の思いや考えを表現できる児童・生徒の育成」とし、各教科・領域の特性を踏まえた上で、学び合いや自分の思いや考えを表現する活動を取り入れた授業を実践することとした。

## 3 研究内容（各校の取組）

### 【今泉小学校の取組】

#### (1) 主な研究内容及び方法

本校では、今年度、「国語科」と「特別活動」で2回の要請訪問を行い、研究を深めてきた。また、11月には2週間の授業公開ウィークを設定し、「進んで課題に取り組んでいく力を育てること」「表現し合う活動により学び合いを深めること」のどちらかに視点を当てた、一人一授業を公開した。



#### (2) 有効であった指導の手立て

##### 【国語科】

- 導入時における児童の興味・関心を喚起させる絵本の読み聞かせ
- 目・手・ハートのマークなど生活科とも関連したマークを継続的に使った、話し合いを成立させるための工夫
- ヒントカード・ワークシートなどの活用
- 児童のワークシートをテレビに映して提示するなど、視覚的に分かりやすい授業の展開の工夫

##### 【特別活動】

- 円滑に話し合いに取り組むための題材の工夫（普段の生活から出された題材）
- 司会グループ用のマニュアルの活用
- 自分の意見を持ち、発表できるなど、気兼ねなく発言できる雰囲気作り
- 充実した資料の活用（ベネッセ情報モラル教材「はむはむの森」）
- 【一人一授業（表現力・学び合いに視点を当てた授業）】
- 学級全体の中で自信を持って表現できるための少人数での話し合いの場の設定
- 発表させる前に、自分の考えを整理したり発展させたりするためのウェブ図やワークシート、掲示資料などの活用
- 充実した発表をさせるための考える時間の確保

### 【泉が丘小学校の取組】

#### (1) 主な研究内容及び方法

本校では、今年度から2年間、文部科学省より道徳教育の研究指定を受け、道徳教育の要となる道徳の時間と児童の生活をつなぎ、自らよりよい生き方を追求する児童の育成を目指した研究に取り組んでいる。

##### ①内容

- ・各教科の特質を生かした意図的、計画的な道徳教育
- ・自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の改善
- ・自己のよさや生き方の課題を見出し、発展させるための支援のあり方

##### ②方法

- ・道徳教育重点目標に向けて、各教科等での特質を生かした指導計画を作成する。
- ・年間3回の研究授業を行い、地域学校園の小・中学校の職員にも公開する。
- ・いずみ・道徳ノートを作成し活用する。

#### (2) 有効であった指導の手立て

- 各教科等での道徳教育を生かした授業の展開（導入や展開の後段・終末時に写真やアンケートを生かす。）
- 自己の生き方についての考えを深める言語活動の充実（話し合い・書く活動・役割演技等）
- 教師やゲストティーチャー等の道徳的体験のモデル提示
- 児童の思考を助ける板書構成の工夫
- 新たな自己へのあり方を見つめ、生き方の課題を見出す振り返りの充実（いずみ道徳ノートを活用し授業後も発展させる。）



### 【泉が丘中学校の取組】

#### (1) 主な研究内容及び方法

##### ①研究の方向性

平成22年度より継続研究している授業力向上を目指した取組から、実態に応じた、ねらいに迫るための教材教具を工夫したり、生徒主体の活動や他と協力して取り組む場を設定するなど、生徒の考えを交流する時間の確保に努めているが、多様な考えを引き出したり、思考を広げ深める発問をしたりするなど、声かけや発問に課題があることが分かった。そこで、生徒の学習意欲を喚起しながら、基礎学力の定着や基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る指導を工夫し、補助的な発問や考えを深める問いかけなど、教師と生徒のやりとりを充実させるとともに、各教科で研究テーマに迫るための課題を設定し、授業改善の視点を「学習意欲を喚起する指導の工夫」「言語活動を取入れた展開の工夫」「基礎・基本の定着」に絞って実践することにした。



##### ②授業公開ウィークの設定

1週間の中で、互いに授業を見合うことを目的とした「授業公開」を、第1回目は9月9日～13日、第2回目は12月2日～6日に設定した。第1回目は、教科や学年の枠を越えて自分の教科以外の授業を見合えるよう、同じ研究の視点別に小グループで、

第2回目は各教科の中で見合う形で実施した。

##### ③授業研究会の実施

第1回目は、「小グループ内での協議」「視点別に協議内容の共有」「全体発表」を取り入れた形で9月18日に実施した。第2回目は、各教科で「指導のよさ」「指導によって変容した生徒の様子」「今後有効であると思われる手立て」を中心にした協議を12月18日に実施した。

#### (2) 有効であった指導の手立て

- 何でも言い合えたり、興味・関心を高めたりすることができる授業の雰囲気作り
- 実態に応じた教材・教具、ワークシートの活用
- 分かりやすい演示の工夫
- パワーポイントやデジタル教材、映像等による視覚的なアプローチ
- 生徒の発表や意見交換等の活動を促す声かけ
- 生徒の意見を引き出す声かけや発問の工夫
- 生徒主体の活動、学び合いの場、自分で考える場、一人一人が活躍できる場の設定
- 生徒の発言を生かした授業展開



## 4 まとめ（成果と課題）

今年度も昨年度同様、校内で互いに授業を参観するとともに、地域学校園内の小・中学校へ授業を公開しながら研究を進めてきた。異校種による授業参観者は50名を越え、各校の実態把握や児童・生徒理解、発達段階に応じた指導、小・中学校の学習の連続性など、これまで見えていなかった様々な視点で大変参考になり、授業研究会の中で授業以外の情報交換ができたことも大きな成果である。また、異校種による授業参観後に記入する「授業参観カード」の中にある授業評価の結果から、「児童・生徒が主体的に取り組める活動の設定」「児童・生徒の実態を把握した上での本時の目標の設定」「ねらいに迫るために必要な効果的な教材・教具の工夫」「児童・生徒に分かりやすい表現を意識した発問や指示」の項目では、授業参観者全員から肯定的回答が得られ、確実に授業力が向上しているといえる。さらに、各校の研究の方向性が明確になり、研究が進むにつれ、研究組織や学年・ブロック・教科の協体制が整い、各校の中だけでなく、地域学校園として一丸となって取り組む土台ができた。と考える。

今後は、「学び合い」を充実させるために、話し合い活動にふさわしい場を設定したり、一人一人の考えを交流する時間を十分に確保したりしながら、1時間の授業に児童・生徒、一人一人が達成感や充実感を味わえるよう、指導の手立てや発問、声かけを工夫していきたい。また、自分の思いや考えを表現できるためには、基礎的・基本的な学習内容の理解が必要である。そこで、小・中学校9年間の学習内容を見通した地域学校園版「家庭学習の手引き」を活用しながら、授業と併せて家庭学習の習慣の定着を目指した取組も推進しながら、個々の授業力向上を目指していきたい。